



朝、母親の力也君来たよという声で目が覚める。

温かい布団から出るのが嫌だが、階段の下から母親が早く降りてこいと呼んでいる。

2階の窓から下をのぞくと、同級生の力也がランドセルをしょって、紐付きのサッカーボールを蹴りながら僕を呼んでいる。「ちょっとまってー。準備するからー。」そう言いながらすぐに飛び起き、歯を磨く僕。

そうそう、簡単な僕のプロフィールを言うと、

今は12歳。今年小学校を卒業予定。学校では、アックンと呼ばれている。名前は佐藤明（サトウアキラ）。

将来の夢は今年から開幕したJリーグに出場する事。当然、チームは有名選手が多数在籍している東京ジェスティに入りたい。ちなみに学級委員をやっている。42人のクラスで、満場一致で学級委員になった。

学校のテストは常に100点。たまに95点を取ると、本当に自分の失敗を悔いてしまう。

僕は、府内の有名学習塾に通っているから、小学校の勉強なんて簡単すぎて、簡単すぎて。

なんでこんな問題が皆はわからないんだろう。。。??

そうそう。サッカーは小三から始めて、今では市内で誰も僕たちの名前を知らない人がいないほどうまい。と、、、自分では思っている。

僕たちと言うのは、力也と僕の事で、僕はFW、力也はMF。僕たちは同級生はもちろん、中学生や、高校生にも負けなかった。むしろ、負けたら勝つまで勝負し続けた。

自分で言うのもなんだが、僕は最近覚えた言葉で言うと、文武両道という言葉がぴったりだと思う。

あ、後、ここ2年間ほどバレンタインデーはチョコレートを10個以上もらっている。そう、僕、、モテルんです。

絶対僕は今後もずっとうまくいくと思う。いや、いかんわけがないし。

ちなみに、今年は私立中学の試験がある。狙っているのは、清北中学。そのまま高校までエスカレーターで行って、大学は早稲蛇か、慶応を狙っている。その前に、Jリーグでデビューしてしまっているかもしれないが・・・。

ま、スポーツの選手になれたらなんでもいっかとすら思っている。

まあスポーツやったら何でもできるしな。

ドッチボールもキックベースも、サッカーも、野球も、僕がいるチームが勝つねん。

あとな。皆僕の言う事聞くねん。たぶん、僕がなんでも出来るからやとおもう。

自分の環境と、才能に目眩がする時がある。選ばれた人間なのかもしれないと本当に思ってしまう。

ただ、ちょっとだけ最近、、、ほんとちょっとだけ違和感があるんだ。

自分では何となく気づいてるんだけど、それが本当に何かはあまりわからなくて……………。

あ、家庭環境の事を伝えてなかったよね。

僕のお父さんは、仕事なにしてるかわからんねん。全然かまってくれへん。

お母さんは昼間はパートして、後は宗教活動してる。

よく、神様にお願い事をしてて、困ったら神様が助けてくれるらしい。

で、僕が今凄く順調なんも神様が助けてくれてるからやねんて……………。

そんな順調な僕も、ある出来事をキッカケに徐々に人生のが狂いだしたみたい。

ただ、それに気づきのはまだ18年後の事だけど……………。

そう、そのきっかけって言うのが中学入試の少し前の日の出来事。

ちょっとしたつまずき

僕は3日後に、私立中学の受験を控えてた。

ただ、僕勉強できるし、がり勉とか嫌やから、相変わらず朝からずっとサッカーしてた。

ちょうど、小学校の男子の間ではアップダウンのまっちゃんが、子連れ狼の格好をして「チャーん」というネタが凄い流行ってた。

それと同時に、乳首を押すと「タイガーマスク」と言うのも流行ってた。

小学生ってのは皆同じような事をしたがるから、学校行くと皆、、、

「チャーん」

「タイガーマスク」

この別々の二つのフレーズを皆笑いながら言い合ってた。

こんな冷めた風に日記に書いてる僕も、、学校では自分で乳首をおして「タイガーマスク」と言いながら、皆と爆笑してた。

力也はクラスの女子の乳首を押そうとしてビンタ食らってた。

けど、ビンタを位ながらも力也は嬉しそうだった。。。。。

何故嬉しそうにしてるのはわからない。

僕にはこの嬉しそうな意味を知るのはまだ早いようだ。。。。。

そんなお笑いブームの中、今日の体育の授業はサッカーだった。

サッカーだけは絶対に負けたくない。

いつも力也と僕は一緒のチームだが、先生が今回は力也と僕を別々のチームにした。

小学校のサッカーと言え、代替皆ボールに集まってしまい、団子のようにになってしまう。

けど僕たちはちゃんと指示も出すから仲間をまとめる事ができる。

いつもは、力也と一緒にだから楽だけど、別々となれば俄然やる気がでてきた。

絶対に負けたくない。何としても勝ちたい。仲間と円陣を組み。作戦を伝えた。

そしてゲームは始まった。

勝負は一進一退の展開。後半ラスト15分の所で最大のチャンスがやってきた。胸元にピンポイントのクロスが上がってきた。胸トラップをし、ボレーシュートをした。

・・・予定だった。

興奮しすぎたのか空ぶってしまい、、、空ぶった右足がボールの上に乗れ、バランス悪く僕は転んだ。

すぐにゲームは再開された。自陣が攻められている。
僕はすぐに起き上がり守りに行こうとした。

その時、、、

右足に激痛が走る。。。。

しかし、チームが負けるわけにはいかない。特に力也のチームには何が何でも勝ちたい。

右足を何度か叩いて走ろうとするが、痛みがきつくあまり走れない。
チームは攻められている。

「ゴーーーーール」

力也が両手を羽の様に伸ばし走りまわってチームメイトと抱き合っている。
残り時間は後5分。。。。

痛みなんか関係ない。僕は走った走った。痛みなんか痛みなんか。
5分間走ったが結局チームは負けてしまった。

試合終了後力也が近寄ってきた。

「足大丈夫か???変な倒れ方してたやろ。」

勝ちたい一心で走り回っていたが、僕が倒れている時、力也は俺の事を心配してくれていたらしい。

体育の時間も終わり、皆が教室に帰るころ。僕は今になって激痛を更に感じだした。
恐らくアドレナリンが切れたのだろう。。。

あまりの痛さに唸る僕、、、先生が救急車を呼んだ。
僕は初めて救急車に乗った。

皆が心配そうに駆け寄ってくる。

僕は痛みと共に改めて自分の人気に喜んだ。
こんなにも俺の事を心配してくれてるんだ。

激痛と言っても大したことはないだろう。僕は良く捻挫や肉離れを起こしていたのでまた同じだろうと思っていた。

しかし、状況は思ったより深刻だった。

。。。。。。複雑骨折・・・・・・・・。。。

どうやら、骨折した後に走り回ったせいで複雑骨折になってしまったようだ。
翌日から僕は松葉杖生活になった。

その時、僕は忘れていた・・・・・・・・私立中学の試験まで残り3日。